

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和3年2月22日

事業所名 児童発達支援センター 防府市なかよし園

チェック項目		はい	いいえ	解答なし	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	10	1	<ul style="list-style-type: none"> ・個別課題の部屋、各グループの部屋、クールダウンできるスペースなど足りないので、交代で使って工夫しています。 ・仕切り等を取り入れることで、空間を分離して小グループや個別課題対応を行っている。 ・相談室を利用してクールダウンに利用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し空間の狭い部屋がいくつかあると良いと思う。 ・空間が狭い。個別の特性を考え、部屋を分けて療育を行う事も必要かと思う。 ・年齢や能力等に配慮しないと事故に繋がると思う。 ・人数が多い日はチーム分けをし、活動している。 ・もう少し部屋数があると、気持ちの切り替えができたり、物を置いたりすることができる。 ・個別に関われるスペースがあるとよい。
	2 職員の配置数は適切である	11	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の配置基準は満たしているが、年齢差や障害程度の差が様々な為、十分な対応をするのは困難であるが、毎日、利用児を担当職員とグループ分けをしながら対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部へ出る機会の確保や研修や研修の日は不安を感じる。パートさんが増えてくれると嬉しいですが、足りていないと思います。 ・人員基準は満たしていますが… ・職員数が増えると利用児に適した手厚い療育ができると思います。 ・人数が足りていても障害のレベルが違うので行き届いていない。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8	5	1	<ul style="list-style-type: none"> ・建物自体は、複雑な構造ではない為保育室や遊戯室トイレなどはすぐに把握できるが、時間割やプログラム等については写真や絵カードを掲示することで利用児が当日スムーズに活動できるように工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚支援が不足しているかも。荷物の分別は写真があつて分かりやすそう。 ・スロープがない。トイレにも手すりがないので、介助を要することもある。 ・今後重度の児を受け入れる環境は整っていないと思う。 ・視覚支援が少ないと思います。自分自身、子供に合わせて教材研究していきたいです。 ・段差がある、玄関の空間が狭い。トイレに関して利便性に欠けていると思う。構造については分かりやすいが、障害の特性に応じて設備に配慮が適切ではないと思う。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	11	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・カーペットが汚染された時は、汚染部位のカーペットを剥がして洗浄消毒をしている。剥がした部位には洗浄消毒済みのカーペットを張り替えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブレイルームがカーペットなので、衛生的とはいええない。拭き掃除のできる床が望ましい。 ・衛生面は努力していますが、建物的に心地よくは難しいです。手洗い場、トイレは特に課題です。
5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	10	3	1	<ul style="list-style-type: none"> ・支援内容を含む業務全般について職員はそれぞれ振り返りをするようにしており、必要に応じて全体で意見交換を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1人は、よく考えていると思います。一丸でとなると課題かもしれません。 ・終礼の時間以外の話し合い、会議等必要だと思う。 ・問題発生した時等、会議等を開き、全員で改善するよう努めている。 	
6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	13	0	1	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの意見については、会議等で検討しながら改善していくようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、実施しており保護者の意向を受けて、職員会議などで検討し業務改善に向けて努力している。 	

業務改善	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	12	1	1	・事業所向け自己評価表の結果については常に玄関は入り口に設置して手に取りやすくしている。また、ホームページにも毎年公開し誰もが情報を得やすいようにしている。	・事業所の玄関付近に、毎年評価結果を掲示していつでも見られるようにしている。 ・ホームページ等で公開している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	11	2	1		・できれば、第三者委員の皆さんに現場を見て頂き評価を受けることが望ましいと考えている。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	12	1	1	・山口県知的障害者福祉協会や県社協の研修等の年間予定を見て必要不可欠な研修については受講できるように予約手配をしている。また、コロナ渦の為、現場での研修に参加できないことが多かったので、オンライン研修を取り入れるように工夫している。	・内部研修の確保に努めている。研修の報告等の機会がある。 ・コロナで減ったことと時間を作っていく事は課題です。 ・今年度はコロナの関係で少なかった。今後も、児発の研修だけではなく、子どもに関わる研修を積極的にとり入れて行きたい。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	13	0	1	・紙面への記入以外に、保護者に直接連絡を取り情報収集をしたり担当相談員からの聴き取りをしながらアセスメントしている。	・プランの更新に合わせて実施している。来園されない方でも、記入内容が多く、保護者の思いを知ることができる。 ・アセスメントが少し不十分かもしれません。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9	4	1	・子どもの標準的年齢別発達行動についての研修を少しずつ取り入れている。今年度は、運動能力につてアセスメントツールを作成利用している。	・統一したアセスメントツールがないとサービスにムラができると思う。 ・園での決まりはなく。個人的な物で使用しています。 ・数値化できる評価を用いて変化を捉えられると良い。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	12	1	1	・保育所等訪問支援を計画内容に入れることで、児童が利用している保育園や幼稚園、他事業所への助言等を適切に行うようにしている。	・地域支援は年齢的にも支援計画に反映させることが難しいです。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	14	0	0	・支援計画会議を行い、支援内容についての統一認識を確認しながら支援を行っている。	・努力しています。 ・支援計画会議を開き計画内容を職員全員が把握し共通認識を持って支援を行っている。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	9	4	1	・担当が、毎日活動プログラムを考案し提示している。	・特別療育の時はチームで立案できているが、通常療育の立案は任せてしまっている。 ・リーダーが作っている。療育担当チームで考案し計画的に活動できるようにしていく必要がある。
15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	13	0	1	・利用児の状況に応じて担当職員が活動内容について提示し、固定化しないように工夫している。		
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	14	0	0	・特別療育、特に機能訓練や言語訓練についてはPTやOT、STが組み合わせる支援計画を行っている。	・通常療育の場合、特性や能力別など、プログラムの整理が必要と思う。	

	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10	3	1	・当日の活動内容計画を上げて各職員の役割分担を行っており打ち合わせを行っている。	・案を作成して下さっていて、時間の確保ができない日もわかるので助かる。 ・支援計画(当日)の確認を朝礼でしていきたいです。(朝礼を行う)
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	13	0	1	・終礼時に支援の報告をし、支援方法について不安や疑問等が生じた場合は、必ず皆で意見交換をしながら情報共有と統一認識を持つように工夫している。	・終礼で行なっている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	13	0	1	・終礼時に当日の支援状況について報告をし、問題が発生しているケースについては、緊急で検討会議を行うよう工夫している。	・支援内容については常に具体的に記録をしている。また、行動基準と照らし合わせて支援内容について検証を行い振り返りをし改善につなげている。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	13	0	1	・モニタリング後、できるだけ職員全員が支援計画会議に参加し支援内容についての見直しを	・定期的にモニタリングを行って支援計画の見直しを行っている。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	12	1	1	・可能な限り、児発管や児童の担当職員が出席するように努めている。	・児発管や公認心理士、児童の担当職員が出席している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	12	1	1	・行政職員(保健センターや福祉課等)との定期的会議を行い情報共有を行い課題解決に臨んでいる。	・ミュージックセラピー(月1)の報告書のやりとりも毎月している。保健センターからの、返答や感想があると嬉しい。 ・保健センターなど行政機関と連携とっている。 ・保健センター関係者に、ミュージックセラピー参加者等の状況等を報告し、情報共有した支援を行なっている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	12	1	1	・利用している全ての子どもに対して情報交換関係機関との連携を取るよう支援している。	・必要に応じて連携が必要と考える。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	11	2	1	・必要に応じて、保護者や相談員等と検討し主治医や協力医療機関との連携を取るようしている。	・必要に応じて、保護者や相談員等と検討し主治医や協力医療機関との連携を取るようしている。
	25	移行支援として、保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	13	0	1	・必要に応じて児童の情報提供のため書類作成をし提出をしながら情報共有に努めると共に、必要に応じて会議等に参加するようにして相互理解を深めるようしている。	・移行支援に必要な書類の提出をし支援内容についての情報共有に努めている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	12	1	1	・防府市教育委員会との情報交換を常に行いながら移行支援内容についての情報共有を行っている。	・教育委員会を通じて、書類提出を行い、支援内容等の情報を提供している。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	11	2	1	・他の児童発達支援センターと情報交換を行い助言を受けたりオンラインでの研修等に参加したりしている。	

	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	9	3	1		・今年度はコロナの影響があり、実施できないがふれあい保育として機会は設けている。・今年度はコロナの影響で実施できなかった。・今年度はコロナの影響でできなかった。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	12	1	1	・子ども発達部会の会長をしているので運営会議や研修会等について積極的に取り組んでいる。	・今年度から2年間、部会長のため会の運営に積極的に取り組んでいる。コロナ感染予防対策の為、研修会や部会の開催が思うようにできなかったが、会員同士の情報交換を十分行っている。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	13	0	1	・保護者から相談や意見があった時はすぐに解決できるような体制づくりを行っている。	・連絡帳や電話などで子どもの状況については情報共有しながら支援を行っている。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	13	0	1	・担当職員が保護者に連絡を取り家族支援のプログラムに参加を呼び掛けている。	・茶話会や講演会は実施している。・もっと充実させると良いと思う。どちらかというと、母親の参加が中心になっているため、父親への参加呼びかけも行うようにしていきたい。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	13	0	1	・利用者負担については、契約書及び重要事項説明書を2部作成し説明後、署名捺印後、園と自宅で保管し、いつでも内容が確認できるようにしている。保護者からの質問があればその都度丁寧に説明をしている。	・総会や契約時に実施している。・保護者からの問い合わせには丁寧に説明している。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	13	0	1	・保護者が安心して利用できるように丁寧な説明を行うように努めている。また、いつでも支援の状況を見学できることを伝え安心していただくよう工夫している。	・児発管によって保護者に丁寧に説明を行うと共に、質問等に対応し理解をして頂き同意を得ている。
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	13	0	1	・常時、保護者からの相談を受け付けて丁寧に対応するように努めている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	9	4	1	・施設での行事にはできるだけ、両親が参加できるように企画を考えている。	・時間を1時間程度に制限し、コロナ禍でも相談会を実施している。・保護者会はないがペアレントメンターの機会を活用。・保護者会はないが親子で参加して頂く行事を開催。(今年はバス旅行、運動会中止)・茶話会などがある。・保護者会は、年に2回ほどあると良いと思う。・父母の会、保護者会は存在しないが、必要に応じて保護者同士の連携を支援している。茶話会(行事後)開催など、今年度はコロナの為十分できていない。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	13	0	1	・相談や申し入れについては、迅速丁寧に対応している。対応する職員が不在の場合は、改めて連絡をとり対応するようにしている。必要に応じて自宅訪問を行い直接会って相談に応じるようにしている。	・相談や申し入れに対しては、相談の内容に応じて子供の担当職員や児発管、心理士、特別療育担当者、施設長等が迅速に対応している。

	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	14	0	0	・情報については早めに伝達するように電話連絡や書面を利用している。	・毎月園だよりや活動予定表、2か月毎に保健便りを発行配布している。 ・年度初めに保護者総会を開き活動内容や年間行事などの説明を行っている。
	38	個人情報の取扱いに十分注意して	13	0	1	・個人の情報にかかわる内容については、最新の注意を払っている。書類については直接相手に手渡すこと、電話連絡は固定電話を利用する。	・個人ファイルは、人目につかないように保管している。 ・個人情報の問い合わせについては、関係者以外には答えない。 ・携帯電話の操作により誤って情報漏洩に繋がりがかねない為、基本的に固定電話を利用している。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	13	0	1	・常に新しい情報伝達スキルを見出すように、職員間で話し合いをしている。	・連絡帳を利用している。 ・障害のある子への配慮として絵カードや写真等の視覚を利用して情報伝達している。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	10	3	1	・事業所への招待はしていないが、近隣施設老人ホームへの慰問や保育施設等への訪問交流を図っている。	・事業所の行事としては、地域住民の招待するような事は実施していない。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	13	0	1	・各種マニュアルの作成を行い、必要に応じて見直しを行い常に対応できるように体制づくりはしている。	・感染症マニュアル訓練はできていません。 ・防犯については、訓練を行っている。各マニュアルについては、職員への周知徹底はできているが、保護者については不十分のように思う。マニュアルの配布を徹底する必要がある。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	14	0	0	・同法人施設と一緒に年1回の合同避難訓練を行い、協力体制を確認し情報共有を行っている。	・毎月避難訓練等、実施しています。 ・毎月、火災、地震、土砂災害等を想定して実施している。消防への通報訓練も実施している。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	14	0	0	・入園時には必ず既往歴や健康状況、病気や障害についての治療などの情報について具体的に把握するように保護者や関係者等からの情報収集と確認をしている。	・マニュアルを作り、バスにも準備してある点に対応しやすいと思う。 ・状態やマニュアルはありますが、バスで1人に対応するのは不安です。 ・定期的にマニュアルの読み合わせをする必要がある。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	13	0	1	・食物アレルギーのある児童については、主治医の意見書を頂き指示に従って栄養士が保護者との話し合いを行い適切に対応している。	・食物アレルギーのある児童については、入所時に必ず主治医の意見書を頂き指示に従って適切に対応している。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	14	0	0	・ヒヤリハットの事例が発生した時は報告書を作成し、その日の終礼などで報告をし早期に対策を検討し共有に務めている。	・ヒヤリハット事例の記録を取っている。危険予知についての基準が明確化していない為、報告されないままで終わってしまうこともある。終礼時の報告をもっと詳細にすることで事例を見出すことができるのではないかと。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	13	0	1	・職員全員が3ヶ月毎に人権・虐待セルフチェック表を付けて上司に提出して意識づけを行っている。 ・県の研修を受け、後日内部研修として復命を行っている。	・内部研修に虐待防止の内容を組み入れてより深く知識を取り入れるようにしていきたい。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	13	0	1	・契約時に保護者に対して身体拘束についての説明を行い同意書等に署名捺印を頂き了解を得るようにしている。	・今まで拘束などの事例はないが、保護者への説明を行い、理解を得るようにしていきたい。